

田井の里地域づくり愛好会発足！ 活気のある田井の里に

田井地区には、現存する蚕影神社、飯名神社、白滝神社、初西神社等をはじめ、明治末に廃社となった六所神社があります。これらの神社は神代の時代から、関東地域の五穀豊穰を願う代表的な神社として大きな役割をはたしてきました。また、かつては508の末寺を有した由緒ある普門寺など、多くの寺社が集中している地域は他に見られません。このため、つくば市や茨城県では、筑波山麓に注目して種々の計画を立てています。このチャンスを逃さないために、田井地区の私たちが一丸となって地域を元気にしていこうと、田井地区区長会が中心となり、各方面の方々に呼びかけ、6月9日に設立総会を開催し、「田井の里地域づくり愛好会」を発足しました。



11月に行われる第23回国民文化祭では、この組織が中心になって「筑波山麓秋祭り」に取り組みます。この全国的な規模で行われる「国民文化祭」を成功させ、活気のある田井地区にするために、田井地区の皆さんには、会員としてご参加、ご協力をお願いします。ただいま会員を募集しています。連絡先*029-866-1122 森田源美(田井の里地域づくり愛好会会長)

すそみ点減交差点 「はんでん屋」交遊録

点減交差点の角、大谷石の倉庫に「はんでん屋 里工房」をオープンして一年。毎月つくば道を歩くご夫婦、トレーニング中の男性、サイクリングにきたご家族、歴史に興味津々な学生、ゴルフ帰りの人、写真を撮る人や絵を描く人…。ここに来る目的は皆さん色々ですが、テラスから見える美しい筑波山の風景には、誰もが感動し、ゆっくりと時間を過ごしていきました。遠方からわざわざ訪れる方も多く、筑波山やこの里山がたくさんの方に親しまれていることを実感しました。はんでん屋は、7月いっぱいまで石倉での営業を終わりますが、この美しい風景が、いつまでも変わらず、訪れる方を迎えてくれることを、心から願っています。



木村美希(はんでん屋)

※「すそみろく」は全労済地域貢献助成事業『都市と農村を結ぶ「すそみの森」づくり』の一環として一部助成をいただいています。

御手洗竹松さん 金色姫伝説を描く 現代に甦るふるさとの物語

神郡にある蚕影神社には、日本でただ一つの養蚕の女神が祭られている。この神社の縁起に、蚕を伝えたと言われる金色姫の伝説が残されている。残念なことに地元の人でさえ、あまり知る人はいない。

蚕影神社の近くに住む画家の御手洗竹松さんは、古くから地元で伝わる金色姫の伝説を、「自分の手で掘り起こし、物語に描こう」と、数年前から準備をすすめていた。今回、カ



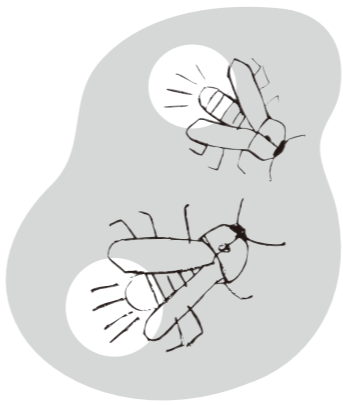
御手洗竹松さん

『私の企画応援します！』の入选を機に、完成させた。縦横2メートルの巨大なパネルに14場面からなる金色姫伝説の物語。御手洗さん独特の手法でデッサンした細かな鉛筆画、丹念に塗られた彩色画の色彩の美しさは、ともに見る者の心をうつ。これはきつと、思いのたけを込めて筆を運んだ御手洗さんの真摯な姿勢が伝わってくるからであろう。

御手洗さんは、1943年、山口県に生まれ育った。小学生の頃、家

●すそみの森づくりワークショップ 白滝古道復活にはじまった活動の第3回として、6月9日、今後の古道や森の整備に関して、大きな地図を見ながら話し合いました。白滝古道は、宮山を抜ける道の整備が進んでいることから、今後、白井く立野くふれあいの里の山裾の道を整備することに。この道は等高線に沿ったなだらかな道で、小田の宝篋山を望むポイントがあり、すてきな散策コースになりそうです。

その他、神郡山の古道の発掘(山桜の名所)や蚕影神社の山裾の道、北条に抜ける山道など整備したいという声も。他の地区へ至る峠を通る山道の発掘や古い地名の掘り起しなど、取り組みたいことがたくさん出ました。



絵：鮎川実佳(田井小学校4年)

デザイン：小沢陽子(漆所地区)

※協賛会員「すそみサポーター」募集中！ 103000円

つくば市筑波区長	齋藤靖夫
つくば市神郡	飯田勝美
つくば市神郡	みたらい農園
つくば市漆所	小林よね
つくば市北条	(有)ヒダ木材
土浦市筑波大学教授	出口正義
つくば市東新井24-13-101	和布工房 はんでん屋
つくば市天久保	結エディット
神奈川県海老名市	土田君枝

他1名の方から2口協賛をいただいています。 私たちが応援してます！



御手洗さんの描いた金色姫伝説の一場面

で飼っていた牛を描いて周囲からほめられたことで、絵に興味をもつ。東京での生活のあと、転機が訪れ

たのは平成元年。安全で安心して食べられる卵を作ろうと、夫婦で筑波山のすそのへと居を移した。1000羽の鶏を飼い、家族と鶏のために無農薬の野菜を作る。時間が許す限り、筑波山が正面に眺められるアトリエで筑波山の四季を描く。「最近では、筑波山麓を散歩する人も増えてきました。『かぐや姫』や『鶴の恩返し』に負けない位の壮大な金色姫伝説。この地の風景を楽しみながら、目に見えない歴史や文化に触れて、思いをめぐらしてほしい」。筑波山麓の風景をこよなく愛する御手洗さんの言葉である。

上野節子(小沢地区)

<金色姫伝説>展覧会のお知らせ

- 2008年7月12日(土)～20日(日)／入場無料 10時～18時(最終日は16時まで)*14・15日は休廊
- カスミつくばセンター 第2研修室ギャラリー
- ★オープニングイベント 7月12日(土)14時～15時／創作舞踏劇「金色姫心の旅路」物語の朗読とともに、篠笛や和太鼓の演奏にあわせて繰り広げられる金色姫伝説の舞踏劇です。 10時～18時／蚕と繭の実物展示

蚕影神社の金色姫伝説

むかし、天竺(いまのインド)に仲国という国があり、その帝には金色姫という娘がいた。皇后が亡くなり、その後に来た継母は金色姫を憎んで、4度も姫を殺す計画をたてた。金色姫を哀れに思った帝は、この国から姫を逃がしてやろうと、桑の木で作った舟に姫を乗せて海に流した。舟は筑波山麓の豊浦(館)に漂着し、権太夫という漁師に助けられる。権太夫夫婦は、金色姫を不憫に思い大事に育てたが、姫は病で亡くなってしまった。その亡がらを唐びつに納めて大切にしていると、ある夜夢の中で、「私に食べ物をください。あとで必ずご恩返しをします」と姫の声がした。唐びつを開けると、小さな虫がいたので、桑の葉を与えると虫は喜んで食べ、成長した。そして4度の休眠のあと、繭となり、繭から糸がとられ、糸から衣が織られた。やがて権太夫夫婦は、この地に養蚕をひろめ、栄えたといわれている。